# 第１部　消防団

## **１　大分市消防団**

## ２　基本の礼式

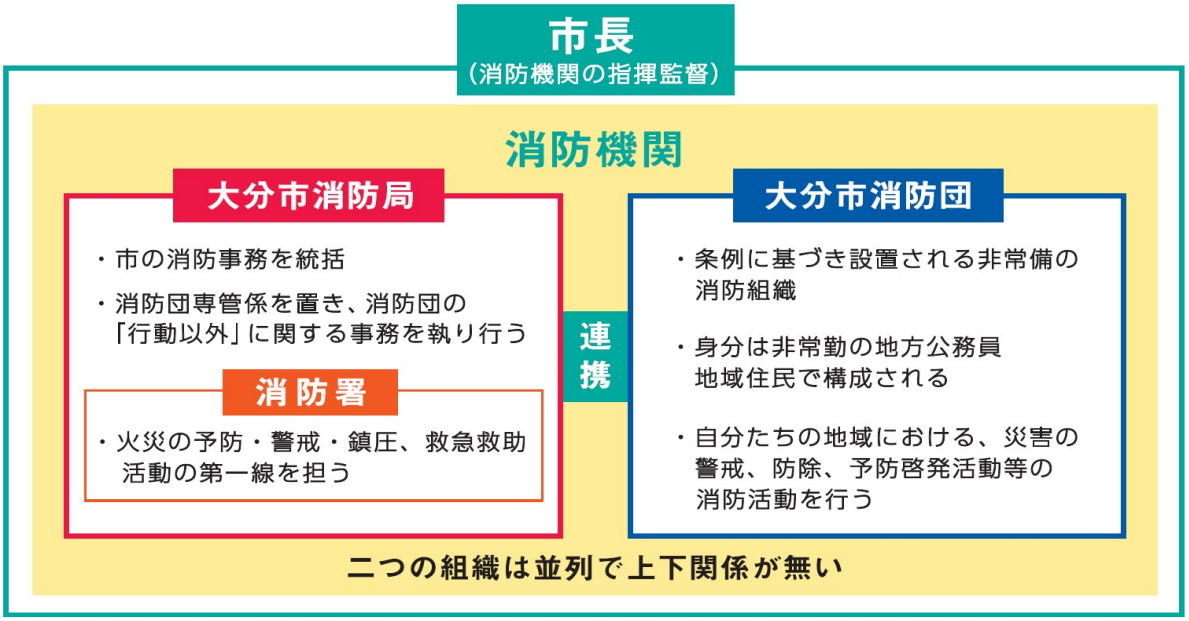
## ■１－１　大分市消防団

### １　消防団という組織

#### （１）大分市消防団とは

消防団は、災害活動はもとより、平常時の防火防災指導を行うなど、公助と共助の両側面を持ち、地域防災の要として重要な役割を担う、大分市消防団条例によって設置される消防組織です。

各地域の消防団は、「自らの地域を自らで守りたい」という郷土愛護の志を持った人々によって結成され、その土地が持つ風土や歴史、住民の意識など、様々な要因から形成される地域特性豊かな活動を行っています。



#### （２）大分市消防団の活動

消防団の任務は、「国民の生命、身体および財産を火災から保護すること」「水火災又は地震等の災害防除とこれらの災害被害の軽減」「災害による傷病者の適切な搬送」と消防組織法に規定されています。

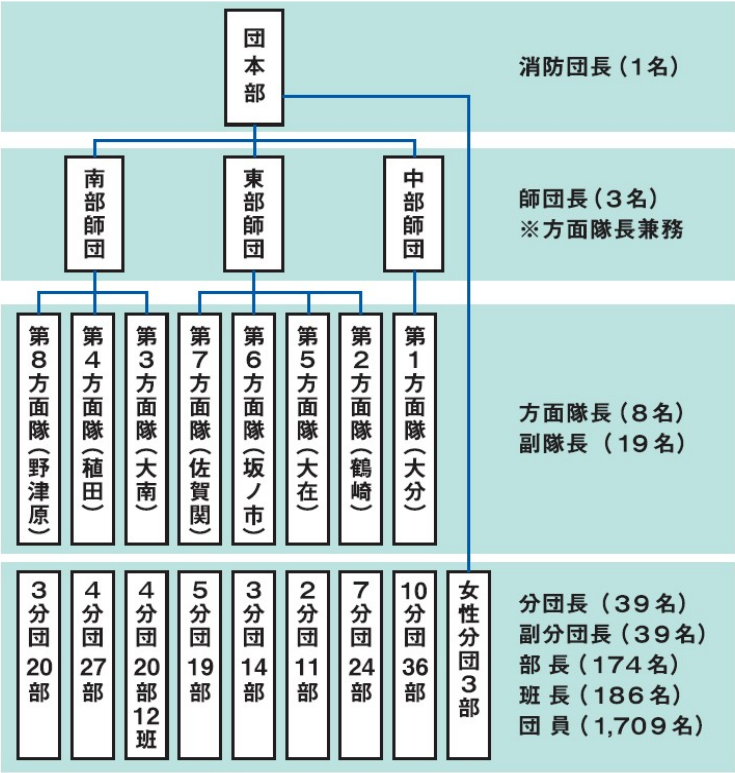
具体的な消防団の活動としては、水火災又は地震等の対応や地域の安全・安心のための防火パトロール、自主防災組織の訓練指導など多岐に渡ります。

特に、被害が広範囲に及ぶ大規模災害や木造建築物の多く存在する地域で危惧される複数棟への延焼火災、林野火災などの対応には、消防団のもつ動員力が欠かせません。また、消防団は、地域と密着しているため、住民と顔の見える関係を生かせることが特徴です。

（３）大分市消防団の組織

大分市消防団は３師団、８方面隊、１８６の部（班）で構成された、条例定数２，４００名の組織です。

（※令和６年３月現在）




（４）消防団員の階級

消防団員の階級は、団長、副団長、分団長、副分団長、部長、班長及び団員です。

消防団員は、火災等の現場で、火災の鎮圧や人命救助などの危険な業務に従事するため、効率的な消防活動を行い、かつ、消防団員の安全を確保するためには、確固とした指揮命令系統を備えた体制が必要になります。こうした消防団員の指揮命令系統を確立するため、階級制度があります。

| 団長 | 副団長 | 分団長 | 副分団長 | 部長 | 班長 | 団員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

２　大分市消防団の装備

（１）消防団車庫詰所

消防団車庫詰所は、消防車両や資機材の収納場所であり、消防団員が集まる場所です。

災害時は活動の拠点として、平常時は訓練や点検整備、会議、研修会などを行います。

| 平屋建てタイプ | 2階建タイプ | 集約タイプ |
|---|---|---|
| | | |

（２）消防車両

消防団は「消防車両」により、火災等の災害、警戒活動、防火防災訓練等に車両で出動することができます。車両には、赤色灯やサイレンを装備しており、災害出動時は、赤色灯の点灯および、サイレンの鳴動により緊急走行が可能です。

| ポンプ車 | 積載車 | 軽積載車 |
| --- | --- | --- |
| | | |

（３）主な消防資機材

消防団は、災害活動時に様々な資機材を使って活動します。

3　消防水利

消火活動時には、消火栓、防火水槽、プールや河川等から水を確保して消火活動にあたります。

4　訓練指導員

大分県消防学校の訓練指導員養成科等に入校し、課程を修了すると修了証とともに、指導員記章が交付されます。指導員記章を活動服の左胸に付け、訓練指導員として消防団の訓練指導にあたります。

5　消防団員の服装

消防団員は、貸与された被服や保護具を着用して消防団活動を行います。

災害出動等の消防団活動において、自らの身を守るための装備であり、消防人の心意気を示すものであるため、正しく着こなしましょう。

| 甲種衣<br>（制服） | 乙種衣<br>（法被） | 活動服 |
|---|---|---|
| | | |

Check □　**大分市消防団の活動や組織がイメージできた**

Check □　**大分市消防団の装備を知ることができた**

Check □　**大分市消防団の装備を端正に着ることができた**

消防団の歴史

消防の起源は極めて古く、わが国で最初の消防隊は寛永６年（１６２９年）にできた「奉書火消」と言われています。「奉書火消」は江戸城中の火災警防のため、幕府の老中が出した将軍の命令書（奉書）によって、非常呼び出しを受けた大名が、急ぎ消防隊を組織して消火に当たったものですが、これらの組織は、古都の京都をはじめ各地方において、それぞれの組織があったことが記録に残されています。

大分市においても、府内城下のことを記したものに、町火消の存在が記されているとのことです。その後、消防組や警防団を経て、１９４７年の消防団令公布以降、現代の消防団へと繋がっています。